

■都市課題

都市防犯力・防災力の向上
 広域サービスの展開
 加古川駅周辺の賑わい創出

■解決方策

- ①広域的なデータの一元集約・共同利用
- ②3D都市モデルを活用したVRモデル構築
- ③交差点の危険検知・注意喚起(AIカメラ)

■KPI

①	地域の防災体制への満足度	65%	R8年度
②	加古川駅周辺の都心魅力の満足度	60%	R8年度
③	地域の安全対策への満足度	65%	R8年度

■実証実験の概要・目的

- 【①広域防災】広域防災データの一元集約化と利活用による広域防災力の向上
- 【②スマートプランニング】3D都市モデルを活用した加古川駅前再開発に向けたスマートプランニングへの展開
- 【③次世代見守り】AIカメラのセンシングデータ(危険運転車両検知)を活用した次世代見守りサービスの展開

■実証実験の内容

①広域防災

- ✓ 土砂災害関連データ等の一元集約・ダッシュボードでの可視化、都市OS等の共同利用調査・試行
- ✓ 市内に地盤傾斜計・土壌水分計を設置し、土砂災害データ集約



ダッシュボードイメージ

②スマートプランニング

- ✓ 現況モデル・将来モデル(素案)を整備し、統合してVRモデルを構築
- ✓ 点群データ等によるモデルの詳細化



ベースとする既存ベース

③次世代見守り

- ✓ 市内2交差点程度にて、AIカメラで事故リスクの高いスポットのデータ取得、都市OSへのデータ格納、データ分析・検証
- ✓ 交通対策に向けた関係者協議への活用



■実証実験で得られた成果・知見

- ① ✓ 地盤傾斜計・土壌水分計を市内設置し、新たな防災データの活用可能性を確認。
- ② ✓ 今回のVRモデルを活用した、「2040年の加古川駅周辺を考える若者ワークショップ」を開催し、意見交換の活性化に寄与することを確認。
- ③ ✓ 事故リスクの高い市内の3交差点にAIカメラを新規設置し、交差点での危険運転車両の検知・注意喚起など一定の効果が期待できることを確認。
 ✓ 交通誘導員や庁内にヒアリングし期待感を確認。

■今後の予定

- ①: 庁内/広域での運用フロー検討、広域ニーズ対応。
- ②: VRモデルを活用したWS開催や、既導入済みのDecidim(市民からの意見集約)との連携を予定。
- ③: 交通安全に関係する関係者との意見交換や、誘導員への周知や交差点改良等の対応方策の検討。